

秋のフリーラン

軟弱ビーナスライン

。ざいと 10月6日 ~ 10月9日 3日4日

。めんつ：富田向、沢木至、名取物、鈴木俊明

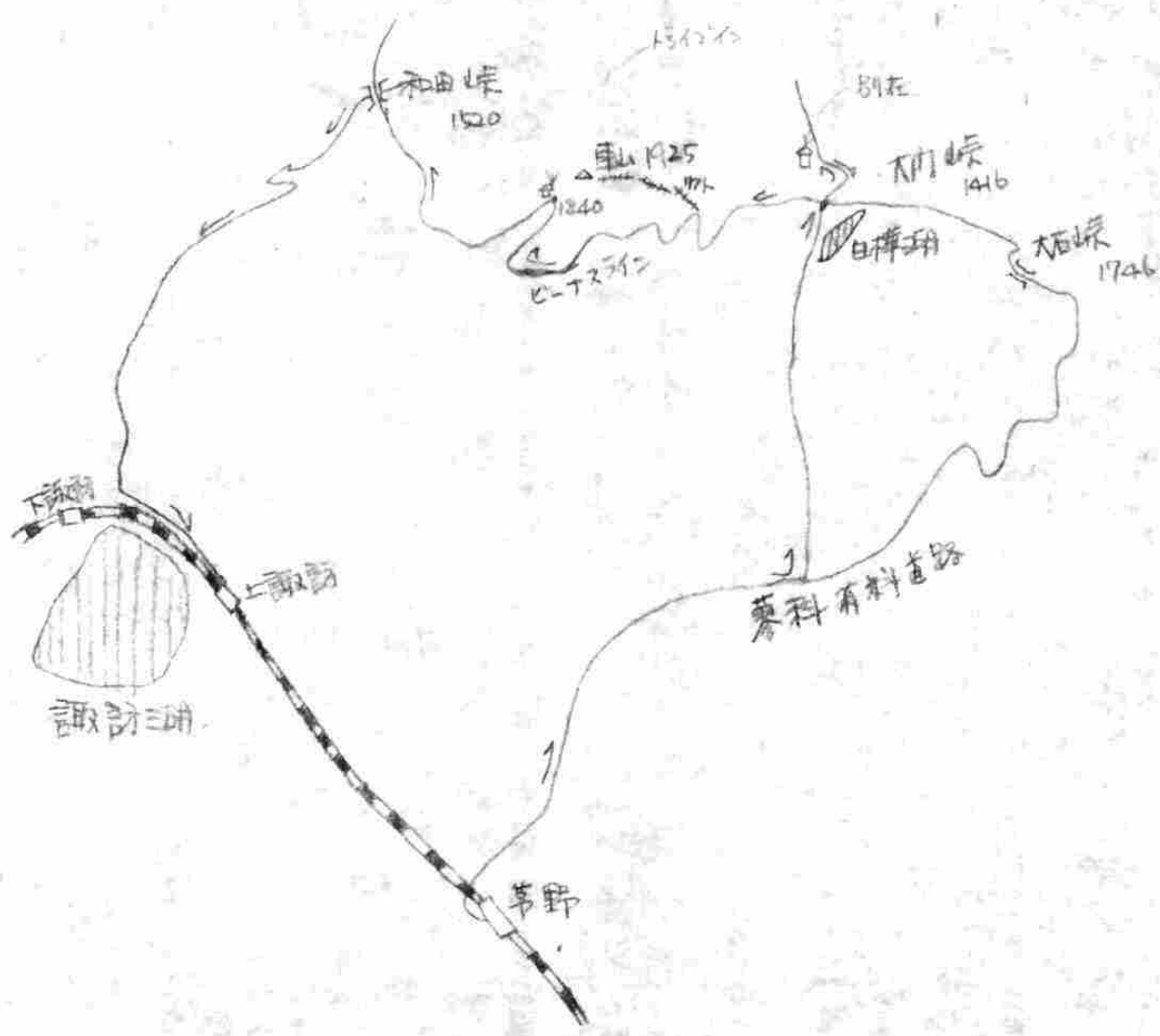
。コース

6日 新宿 → 茅野 → 大内峠 → 別荘
 7日 別荘 → 車山 → 日輝峠 → 別荘
 8日 ぶりーでー
 9日 別荘 → 車山山頂 → 霧ヶ峰 → 諏訪

。リポ-ト-：富田向

十月六日、午前、ふもむらた急ぎあがる。時計
 を見ると、なんじ八時ではないか。一瞬、茫然と
 した。なぜなら、六時半に集合となっていた。私
 リーダーであった。かといってどうする術もない
 だに急ぐのみ。新宿につくと当然たれもない。
 十時発の、あずさに乗った。一刻も早くという
 私の気持を無視して、あずさほゆっくりと走る。
 やっとの思いで茅野についた。心を落着けてホ
 ムに降りる。誰もいない。改札口を出る。どうい
 うことやら、誰もいないではないか。再び茫然
 とする。輸行袋も自転車も見事がない。どうい
 う。バニキに座ろうとすると、後ろから「富田」
 聞いたことのある声。振り返ると鈴木君がいるでは
 ないか。彼の顔を見て、うわすつていちゃがやっ
 と落着きを取戻す。「鈴木と名取は？」「知らな

いし 以外回答が返って来た。仕方なく二人
 で自転車を取み始める。間もなく下りムに
 アルパスニ島がすべりニム。采石とる取が降
 リてきて 「ゴラー、トミター、ナニヤツテ
 ンダヨール」 駅中に響きわたる大声。私は取
 しごと嬉しそごつ、笑って「ア、ア、自転車
 を取み終り、昼食を三人に着るへ干パンボ料
 予定を変更して夢科山を直つて直接大門峠か
 ら別荘へ行くことにした。途中夢科有料道路
 を通る。有料道路としてはおきまつた道であ
 る。日本で最初のものでした。という名取氏の解
 説が納得。井戸沢で大門街道に入る。このあ
 たりから、トモリに登りがさつくなつてくる。
 最高で十%なので、おぼろでもなすが、夏
 以来、あまり体を動かしてない上、高原を



10D-2

のどろきか低く、夕暮近か、たこともあり、
 最初に元の足が、つりはじめた。半分くらい登
 った所で小休止。再び走り始めますが、百米も
 走らないうちにまたつりはじめた。今度は両
 足。仕方なく再び小休止。十分に足をほぐし
 て再出発。なんとかこまかしくなから登って中
 く。路傍を流れる溪流がほとんどたたりうで
 ある。しばらくすると、汚い水を基えた白
 禰羽が眼前に現われた。ヤ、とついた。ここ
 までくれば後は下り。別荘は姫不平にあり、
 大門峠から百五十米ほど下にある。日は今に
 も西の葉鞍山に隠れようとしていた。下り始
 めかうすう、続いて七・八%とさついで下りが
 続く。高原の風は、手をかいていたこともあ
 り、必要以上に冷たく感じる。別荘にいった

のが六時。一息つけてから、食事をすませて、明日
 の打ち合せ。霧ヶ峰まで行くことに決定。この日
 のXニエー。島由君得意のクリュームシヤエー。
 八十月七日V

九時に起き、朝食をすませて空を見るとき、どん
 より曇り空。皆の口からため息が出る。出発前の
 整備をするが、この時、沢不氏が昨日からあかし
 かった。バリの止めネジをナメてしまいいまこ
 かなくなっています。いかしどうするにもど
 さず、仕方なく出発。最初のヒートは大門峠であ
 る。このころは寒かったなあ。あのコーナー
 はさつかったなあ。雪も、口々に染みそうに
 登って行く。いか、その内倉りもさつくなり、
 話しする余裕もなく、パタパタを踏む足にカが入る。
 ほんとか登りまじり、二山から飯の用意なピーナス

ライン。大川峠とは打って変って、丘の頂上、
デシタラ登り始めるが、心配していたとおり
し下いにガスが濃くなってきた。視界が二、
三十米にたったため、ライトの長灯を指示。
ガスの濃さには耐えてほとんど寒くなって、
全く体が暖まる間がない。ついに十米先は
なんにも見えなくなってきた。こうなる
と、今か昼なのか夜なのか、自分はいったい
どこにいるのか、と、夢の中で夢の中をさまよ
っているという雰囲気である。しかし二人は
日に走るのは、おもしろいあまりいいもの
ではない。早く晴れてくれないかなあ。数分
後、急に下りはじめた。すうと前から閉塞感
いた声、耳が聞こえる。先を行っていた名取
と又木である。イニニでましまいひじ。

なんともなくあつた。標高千八二〇米、大
川峠からプラス三八〇米。急いでドライブインに
入り、トウモロコシを食べながら、二枚かっとうす
るか相談。霧ヶ峰を覗きつめて引き返すことに決
めた。外に出ると冷たく寒かった。フロントに
アップヤートルと霜が降りている。トウモロコシは驚いた。自
ずか降りてくると、空はすっかり晴れ雨かり
車山の頂上まで見えようではないか。X.O.ノ。一同
残念。日俣湖を一周。エノモトさんの知り合いが
やっている。エノクレマ。う茶店へ行ってこ
し、ヒートを飲む。なかほかいいムードの店だ。た。
舟が暴行がふかしくなり、雨がぱらぱらと降り
わきで来る。ゆっくりと夕飯をすませ、四人
で下ることと。い。ば。麻生が八時、こうから始め
た。たのび聖朝の時。

八月八日

午後二時、ゆっくりと起き、部屋の掃除を

10D-1
どといて、軽く運動をして、夕食。明日は雇

傭を起して私本までと未定し早めに寝る。今

夜のメニュー、肉、野菜、たけのこ、ジャガ

イモの煮、ころもい

八月九日

前日、前々日と打って返って、快晴である。

とても気持ちいい。今日は頑張るぞと軽快に

出発。ドライブインまで前々日と同じ道であ

るが、暗いと曇りではこんど気分が違う。全

中リフトのりばがあり小休止のつもりで止

たのがこの日の大正な香くるわせ。結局全員

一級で、自乗車を下して、リフトのり車い

頂上まで行くことになった。車山は人がい

木がほとんどない。が、その少なきは半分紅葉

して下り、高原の秋の早さを感じさせる。頂上ド

くとニハが驚きであった。北アルプスの山々、誰

かさんが行くと乗鞍、南アルプス、ハレ岳、浅間

山、富士山までも、フーヤリと見えるのである。

皆感動のあまり声も出なかった。木道に予定を更

更してよかった。しばらく休んで、予わりを見下

ろすと、白米は下にピーナスライクが通って

る。そこで変更ついでに、もう一度ここへ自動車

で上ってこようというにはなった。

ドライブインをより登るのだが、頂上へは二つの

ルートがあった。一つは軟弱なハイキングロード

ニハは乗ったままでも木に上れる。もう一つはかた

りハートな直線コース。その道は、雨の水が流

落ちたおちたおちたと思われ、草もなく、

大きな石が露出している、それらの石が重く

で一種の階段状になっていような直で、我々

はそこを、自転車をかついで登ることとした。

階段状といっても、階段のようにはおちやかた

はなく、石の上にエカがふえたりあり、千二

又千二、石の上はよく滑るのである。又、

勾配といえ、四十五度もあり

うなれば、ロルフライミング

を少し取柄として感じのもの。来、

して果てたものでもない、その道は下からも

上からも一望でき、下に行く女性ハイカーは

の黄色い声にはげまされ、一同、黙々と登

りゆく。一、二度、足をすべり、後う

に倒れようになる。もし倒れればまず木根が

は免れな。頂上には何時も新屋をいっけい

であった。もし初めて上った石の重さや

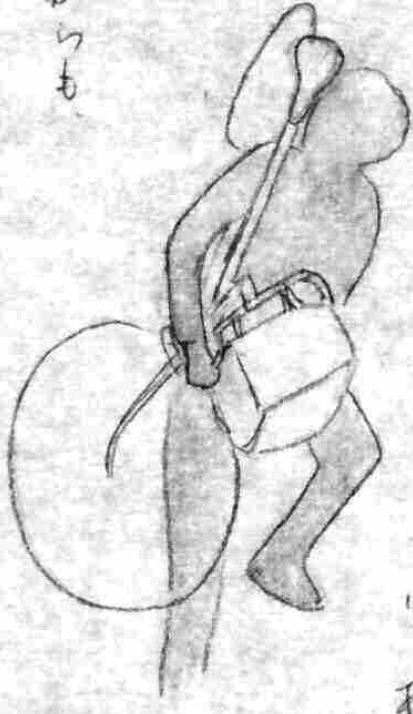
はも肩や膝にもかかっているだろう。このあたりは

キニグロートも下りのだがニハカも、木三石

ばかりゴロゴロしている、予るころ石のヒツ

ろがし、と、つ感じ、難なくトライグアイまで戻

り、おとほ、取手まで下りばなし。



今日のフリーランは、

観光旅行を自転車でも

、と、い、た感じがした

い、が、最後に一つ花を添えた

と、い、る。又、毛が干コンボートとや、出発前

に十分打合せをい、な、つ、た、の、か、ま、す、か、と、

乗、り、及、び、て、お、り、ま、す。

ああ、お、う、ら、が、あ、い、は、は、あ、

